

第6回 刈谷市都市計画マスタープラン・緑の基本計画策定委員会 議事録

1 日 時

令和4年7月6日（水）午後2時00分～午後3時30分

2 場 所

社会教育センター401 研修室

3 出席した委員 15名

委員長：瀬口哲夫

委 員：瀬口哲夫、磯部友彦、岡田行永、高井智幸、内藤誠、大野淳、木村昌博（代理：福岡正樹）、北川善己（代理：志賀雅樹）、山本純、永田憲正、稲垣敏雄、深谷光秀、保田猪三郎、深谷理恵、加藤京子

4 欠席した委員 2名

委員：近藤真理、三浦光世

5 事務局

清水課長、小川課長補佐、林工務係長、堀場主任主査、坂本主事

6 傍聴者

なし

7 公開・非公開の別

公開

8 報告・議題

- (1) 前回会議までのおさらい
- (2) 前回会議における主な意見と対応
- (3) 第3次刈谷市緑の基本計画について(原案)
- (4) 今後のスケジュール(予定)

質疑

《議題（1）について》

説明（資料2-1：これまでの検討経過について）

意見無し。

《議題（２）について》

説明（資料 2-2：第 3 次刈谷市緑の基本計画《原案》）

（資料 2-3：前回の主な意見の対応）

【委員】

前回の主な意見の対応⑤について、基本方針の「まもる緑」は緑を「まもる」、「つくる緑」は新しく緑を「つくる」、「たかめる緑」は緑の質を「たかめる」、「つなぐ緑」は緑の連携を濃くして「つなぐ」という認識から誤解を生んでしまう。都市計画マスタープランでは、4 つの課題に対して、同じテーマで整理がされている。緑の課題である「活力」が「つくる緑」に記載があり、「環境」、「安全」が「まもる緑」など基本方針と課題の連携が分かりづらい。

【事務局】

分かりやすいように記載方法を検討する。

【委員】

つくる緑の視点の中で、建築的な要素ではあるが、地区計画で『公開空地』を作りながら、緑を増やしていく取り組みがあるため、本計画で記載するのはどうか。

【事務局】

つくる緑は、緑をつくることに加えて、緑を増やし「都市の活力をつくる緑」として設定している。地区計画や『公開空地』などは、地域の顔となる緑のまちづくりとして、P.18 の「中心市街地の彩りのある緑のまちづくり」や「緑化重点地区の緑のまちづくり」の施策の一つとして想定できる。また、具体的な表現まではしていないが、「たかめる緑」の P.20 「美しい都市景観の形成」の民有地緑化の推進や、「つなぐ緑」の P.22 「将来都市構造と連動した緑のまちづくり」において記載をしている。

【委員長】

『公開空地』について具体的な記載はあるか。公開空地では、緑や賑わいの創出を図ることができるため、有効である。

【事務局】

『公開空地』ではないが、「たかめる緑」の P.19 「新たな生活様式に対応した公園の機能拡充」、「つなぐ緑」の P.22 「将来都市構造と連動した緑のまちづくり」の中で、『オープンスペース』として記載をしている。

【委員長】

『公開空地』が本計画の中で重要な施策になる場合は、記載をした方が良い。

【事務局】

委員の意見を踏まえ、記載方法を検討する。

《議題（３）について》

説明（資料 2-2：第 3 次刈谷市緑の基本計画《原案》）
（資料 2-4：《参考資料》資料編 計画の目標について）

【委員】

P.13 の計画の数値目標について、「計画的な管理に取り組んだ施設数」とあるが、文章中に、公園施設長寿命化計画に基づき更新する公園の施設数と記載されており、計画的な管理をしていくのではなく、今後、更新してくような認識であるため、計画的な管理ではなく、「計画的な更新に取り組んだ施設数」など、表現を検討していただきたい。

【事務局】

文章中とタイトルの表現が異なるため、タイトルを「計画的な更新に取り組んだ施設数」に変更する。

【委員】

P.13 の「市街化区域の緑被率」の数値だけを見ると、取り組みが何もないように読み取れる。未利用地の活用など、市街化区域での取り組みはあるはずである。緑被の定義を考えていくことで柔軟に対応することができ、緑地は地上だけではなく、屋上緑化や壁面緑化などでも緑化面積を確保することができる。また、雨水の流出を抑制させる透水性のある駐車場など、環境を守る取り組みはある。

【委員長】

市街化区域の緑被については、民間の農地も含まれていることから、減少傾向にあるため、緑被の説明を記載し、現状維持についても、環境をまもる取り組みであることが分かると良い。また、名古屋市では、壁面緑化を緑被として計上している。刈谷市はどこまでを緑被としているのか、市民にわかりやすくすると良い。

【事務局】

緑被の説明については、記載方法を検討する。

【委員長】

刈谷市では、逢妻川、境川、猿渡川が市街地の中にあることが特徴であるため、将来的には河川緑地を増やしていくことが、刈谷市の緑の空間に非常に寄与すると思う。刈谷市の将来的な市街地の空間構成について、表現してはどうか。

【事務局】

P.15 では、河川を一つの貴重な緑として組み込んでいる。今後、施策を実施していく上で、河川は重要な要素になるため、意識しながら取り組んでいきたい。

【委員】

緑の課題の P.8「安全」の視点からみた課題の中で「避難場所等となるオープンスペースの確保」という記載があるが、具体的な施策の中で、『避難場所』の記載がない。課題と施策が対応しているか確認をしてほしい。

【事務局】

現状では、P.16「防災・減災機能の強化」の文章中の「など」に含まれている。刈谷市では、防災公園として、一時避難場所として公園を活用しているため、「刈谷市地域防災計画」の中で公園の位置づけを確認した上で、記載方法を検討する。

《議題（４）について》

説明（資料 2-5：スケジュール(予定)）

意見無し。

《その他》

【事務局】

今回いただきましたご意見、ご指摘事項につきましては、原案を修正させていただきまして、パブリックコメントを実施していきたいと考えております。なお、修正につきましては、委員長一任ということにさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【委員】

了承。

以 上